

13 セビジャーナスはフラメンコ？

フェリアの定番

4月といえばセビージャのフェリア。正式にはフェリア・デ・アブ ril、4月の市／お祭り、というのはご存知ですか？ かつては必ず4月に、ということで、年によって変わる聖週間の日程が4月下旬の場合、通常、2週間後に行われるところ、1週間しかあけずに行ったりもしましたが、昨年は5月4日からと、5月に開催されることもあります。なお今年は4月26日からです。

さて、セビージャのフェリアに限らず、アンダルシア各地で行われるフェリアとよばれるお祭りに欠かせないのがセビジャーナス。老いも若きも、普段歌や踊りとは縁がなさそうに見える人すらも歌ったり踊ったりするポピュラーな曲です。いわばアンダルシアの盆踊りの存在。基本的には、プロアマ問わず、専門の勉強をした人たちによって踊られるフラメンコ舞踊の中ではちょっと異質な存在です。

セビジャーナスはフラメンコ？

スペインのデパートなどのCD売り場では、フラメンコとセビジャーナス／ルンバのセクションは別になっていることが多いのにお気づきでしょうか。

フラメンコとセビジャーナス／ルンバは違うもの、という扱いなのですね。スペインにはセビジャーナス専門のグループや歌手が毎年のようにアルバムをリリースしているということもあるでしょう。

また、フラメンコ教室でも、フラメンコのクラスとセビジャーナスのクラスははっきりと分かれています。日本ではフラメンコを学ぶ第一歩としてセビジャーナスを習うことも多いですが、スペインでは違います。セビジャーナスのクラスではセビジャーナスだけを教えます。二つは別々のものという認識なのでしょう。

とはいってもCD売り場でもフラメンコのそばにあるし、フラメンコ教室でもセビジャーナスのクラスがあるように、両者は近いものであるということも確かです。

間口が広く、独自の発展

セビジャーナスは、セビージャの民族舞踊曲です。18世紀にスペイン中央部カスティージャ地方で生まれ、全国で親しまれた舞曲セギディージャを元に生まれました。セギディージャと同じ三拍子で、調性は長調短調フラメンコ調なんでもあり。歌詞も基本の形



セビジャーナスのグループ、カントレス・デ・イスパリスはセビジャーナス・ブームの立役者の一人。ヒット曲『ア・バイラル、ア・バイラル』は日本語バージョン『踊れフェリア』もあります。

はあるもののかかなり自由がききます。

セビジャーナスを専門に歌う歌手やグループは多く、各地のコンサートを満員にする人気歌手もいます。80年代の終わりから90年代初めにかけてはブームが起り、たくさんのレコードが発売され、またセビジャーナスの生演奏で踊れるセビジャーナス・ディスクがセビージャだけでなく、マドリッドなどにもできました。現在、ブームは去ったものの、根強い人気を持つグループは毎年のように新作を発表しています。そのアルバムはセビジャーナスとルンバというのがほとんどで、他のフラメンコ曲を歌っているものはほぼありません。

誰でも歌える セビジャーナス

フェリアなどでは友人同士など、素人が歌っているところもよく見かけられます。そう、セビジャーナスは他のフラメンコ曲よりも、ずっと歌いやすいのです。カラオケが歌える人なら誰でも歌えます。自分で歌う詞とメロディーを選んで組み合わせていくフラメンコと違い、歌詞とメロディーはセットで決まっている、というのもあるでしょう。日本人にとってはスペイン語の歌詞がネックになってしまうかもし



1930年代のセビジャーナス。昔から誰もが歌い踊るのが魅力です。

れませんが、セビジャーナスは専門的な勉強なしでも歌えます。一人で歌うのが基本であるフラメンコと違い、合唱もできます。グループが多いのもそれは証明しています。また、ブームの時にはロシオ巡礼の信者組合などの合唱団のCDも多く発売されました。

踊りでも、スペインでは習う場もフラメンコより多く手軽です。フラメンコ教室にあるセビジャーナス専門クラスだけでなく、学校の課外活動や日本のカルチャースクールのような市民センターなどでも習うことができますし、また踊れる人が多いので、親から、友達から、など、身近な人に習うこともできます。フラメンコよりもずっと容易に演者となれるのがセビジャーナスなのです。とはいっても、スペイン人なら、セビージャの人なら、誰でも歌える、踊れると言うほどではありません。歌詞や振りのきまりを覚えることはもちろん必要です。それもお祭りなどではバサーダ、すれ違うところと最後のポーズだけ合っていればいんだよ、と言う人もあり、振りを知らなくてもリズムがわかれば、踊れないことはありません。

よりフラメンコなセビジャーナス

そんなセビジャーナスも、一流のフラメンコのアルティスタの手にかかるとフラメンコ性が増します。カルロス・サウラの映画『セビジャーナス』での不世出の歌手カマロン・デ・ライスラ



セビジャーナスのコンクール

が歌うセビジャーナスをマヌエラ・カラスコが踊ったシーンはその最たるものの一つでしょう。通常のカンテのような歌い方、そしてその歌を踊るマヌエラ。また、同じ映画のマティルデ・コラル一家が踊る、マントンを使った美しいセビジャーナスも忘れられません。ロマンチックなピアノの弾き語りに合わせ、思いを込めた動き、表情、素敵です。おばさんたちのコラレーラ、

中庭を囲んだご近所さんたちで歌うようなセビジャーナスも楽しいですね。他にも、様々なスタイルのセビジャーナスを観ることができるこの映画、必見です。

フラメンコであって、フラメンコでない。それがセビジャーナス。フラメンコを楽しむ第一歩ですが、その先にはもっと広くて深い世界が待っています。



映画『セビジャーナス』日本版は絶版ですが、スペイン版は探せば見つかるかも。セビジャーナスの幅広さがわかります。サントラCDだけでもぜひ。



1996年アルヘシラスのベベ・デ・ルシアの別荘のパーティオで。ベベのペーニャがオープンするので呼ばれて遊びに行きました。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。